

## 4 文化財保護

### 基本目標 福山の誇りを次代へつなげる文化財の保存と活用

#### 基本施策1 文化財の調査と保存

##### [主な取組]

##### ○文化財の調査・研究

###### [概要]

開発協議に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査・立会を実施した。美術工芸品については実態調査・把握するための実施調査や福山城伏見櫓の調査を実施した。また、東京阿部家から寄贈・寄託を受けた資料の調査・読み解きを進め、東京阿部家資料文書編（13）及び資料目録を発刊した。

###### [課題]

継続した開発協議に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査、立会の実施や、その成果を取りまとめた報告書の作成を行う必要がある。美術工芸品については、実態調査の成果を、市民に周知する取組ができていない。美術工芸品以外の分野に係る未指定文化財の調査が進められていない。東京阿部家資料の歴史的価値を発信する取組を行っていく必要がある。

###### [今後の方針]

積極的に文化財に関する情報を収集し、調査研究を進める。調査成果に基づいた文化財の指定\*・選定・登録\*を推進する。地域の文化財の見える化のため、調査成果を活用する仕組みを構築する。

##### ○文化財資料の収集

###### [概要]

埋蔵文化財調査に伴い出土した遺物について、広く市民が活用できるよう、写真撮影や凶面の製作、接合などを行い、資料の記録化を行った。また、関係機関から恵与される各種報告書、書籍、図録等のリスト作成を行った。

###### [課題]

埋蔵文化財調査に伴い出土する遺物については、記録化や復元を行うにあたり、専門的な技能や知識を有する人材の確保が必要である。また、調査を行った成果を市民が広く活用できる仕組みの構築が必要である。

###### [今後の方針]

出土遺物を広く市民が活用できるよう、引き続き資料の記録化や、その成果を活用できる仕組みの構築を進める。

##### ○文化財の保存・修理

###### [概要]

各文化財について、関係機関や各種専門家の意見を踏まえ、適切な保存・修理を実施した。

史跡福山城跡

二之丸東側景観向上整備、案内解説サイン整備、天守曲(ぐるわ)輪南面石垣解体修理、塩櫓(しおやぐら)石段解体修理、井戸(黄金水)内部整備

市史跡窪田次郎生家跡	土蔵外観修理
重要文化財福山城筋鉄御門	美装化事業（漆喰塗り直し，瓦の点検，清掃）
特別史跡廉塾ならびに菅茶山旧宅	付属施設解体工事，講堂・付属施設実施設計
重要文化財吉備津神社本殿	総合防災設備整備設計
重要文化財太田家住宅朝宗亭	保存修理事業
登録文化財信岡家住宅	保存修理実施設計（主屋，茶室，炭小屋），解体工事（茶室，炭小屋）
名勝鞆公園	防災施設整備事業
市天然記念物大田神社クスノキ	（危険回避のための）枝払事業

[課題]

継続した整備事業を進める上で，整備事業費に係る所有者の負担が大きくなっている。また，保存整備事業に係る設計や管理を行う人材や保存修理を行う専門的な技能を有する人材など，多方面での人材確保が必要である。

[今後の方針]

引き続き，関係機関や各種専門家への意見を聴取し，適切な保存・修理を行っていく。

[基本施策に関する指標（数値目標）]

項目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	目標値 2023(R5)年度	最終目標値 2026(R8)年度
1	文化財の指定・選定・登録件数	353件 (2020年度 350件)	353件	354件	357件

(項目説明)

1：国・県・市の指定・選定・登録に係る文化財の総数（2022年度は指定・選定・登録に係る文化財は0件）

[評価]

おおむね 順調	文化財の保存・調査について，文化財の価値や魅力を高める調査が継続して実施され，その成果も明らかになっている。また保存・修理においては，文化財の適切な保存・修理が実施されている。これらの調査や保存・修理の成果を，市民が広く活用できる仕組み作りが必要である。
------------	---

[今後のアクションプラン]

埋蔵文化財の発掘調査を行い，史跡の新たな価値の発見に向けた調査を継続して行う。  
本市に所在する文化財の実態を詳細に把握するため，文化財実態調査を実施する。  
東京阿部家資料については，継続的な資料の整理と調査を進め，全体像の把握を進める。  
これらの調査や，保存・修理の成果を広く市民が活用できる仕組みづくりを進める。

基本施策2

地域と一体となった文化財の活用

[主な取組]

○活用に向けた計画の策定

[概要]

「福山市歴史文化基本構想」\*に掲げる方針を実現するためのアクションプランである「福山市文化財保存活用地域計画」の策定に向け、策定委員会の開催、市民・文化財所有者・文化財活用団体等に向けたアンケート調査を実施し、回答の取りまとめを行った。策定委員会での意見やアンケート調査を受けて、素案の作成を行った。

[課題]

福山市文化財保存活用地域計画策定後は、当該計画に基づく各種文化財施策や地域の活動を支える仕組みづくりを行う必要がある。

[今後の方針]

素案のパブリックコメントの実施や推進に向けた体制づくり、文化庁設置の審議会による認定に向けた各種協議を行っていく。

○保存活用計画に基づく文化財の活用

[概要]

史跡福山城跡を始め、保存活用計画を策定した各種文化財の活用を実施した。

【保存活用計画策定文化財】	主な取組
・史跡福山城跡	建造物整備、案内解説サイン整備、景観向上、地形測量、発掘調査他
・特別史跡廉塾ならびに菅茶山旧宅	付属施設解体修理、講堂・付属施設実施設計、駐車場敷地内整備
・史跡二子塚古墳	保存管理事業、周辺整備事業
・史跡朝鮮通信使遺跡鞆福禅寺	ガイダンス施設整備実施設計、地盤調査、客殿雨戸保存修理

[課題]

築城 400 年記念事業に伴う各種整備を行った。今後の魅力発信を向上させる手法や保存整備費が高額となることへの支援方法の検討が必要である。

[今後の方針]

史跡福山城跡保存活用計画に定める活用方法を具体的実施するための整備を、関係機関と連携して実施していく。

○文化財保護意識の醸成

[概要]

福山城築城 400 年記念事業として、築城 400 年博オープニングイベントを開催し、福山城博物館のリニューアルを祝うとともに、著名人による魅力の発信を行った。あわせて、福山城伏見櫓、筋鉄御門、鐘櫓の特別公開を行い、多くの参加者に直接文化財を体験する機会の提供を行った。また、鞆町では、伝統的建造物群の保存修理や、日本遺産\*の情報発信を行う拠点施設として、鞆町

町並み保存拠点施設（鞆てらす）の開設を行った。

文化財に対する市民の保護意識の醸成を図るため、文化財講座、出前講座の実施や文化財めぐりの開催、保存修理を行っている文化財の現場見学会の実施を行った。

[課題]

若者層に向けた文化財の魅力を発信する効果的な手法の検討が必要である。  
地域のシンボルとなる文化財を活用した学習機会の確保が必要である。

[今後の方針]

SNS等を利用した、細やかな情報発信を継続することで、若者層に向けた発信を行っていく。  
地域の学校と連携した地域学習や地域の歴史文化を学ぶことを目的とした機会を構築する。

[基本施策に関する指標（数値目標）]

項目		2021(R3)年度	2022(R4)年度	目標値 2023(R5)年度	最終目標値 2026(R8)年度
1	郷土歴史施設の利用者数	2.0万人 (2020年度 3.9万人)	16.9万人	21.0万人	27.7万人

(項目説明)

1：郷土歴史施設の年間利用者数

【対象施設】福山城博物館 鞆の浦歴史民俗資料館 しんいち歴史民俗博物館・あしな文化財センター、神辺歴史民俗資料館 菅茶山記念館

[評価]

順調	新型コロナウイルスの影響が徐々に低減し、郷土歴史施設の入館者数は増加傾向となっている。特に、リニューアルをした福山城博物館の入館者は、オープンから継続して高い数値となっている。史跡福山城保存活用計画に基づく文化財の活用事業が、順調に進捗しており、市民が広く文化財の価値に触れることのできる環境が広がっている。
----	--

[今後のアクションプラン]

福山城博物館については、築城400年記念事業を機に、天守を含む各種建造物の修繕や、外観の復元などを行い、内部の博物館についても福山の歴史を映像や体験コンテンツを取り入れて学ぶことのできる展示施設としてリニューアルした。展覧会の開催や各種イベントなどを通じた、魅力の発信を継続して実施していく。また、鞆町の魅力を発信する拠点として整備した鞆てらすでは、引き続き鞆町の歴史と文化を紹介する内容の充実を図っていく。